

第1回函館市観光振興財源検討委員会 議事録（概要）

■ 開催日時

令和元年7月22日（月曜日）18：15から20：00まで

■ 開催場所

市役所本庁舎8階第2会議室

■ 出席委員・オブザーバー

大橋委員，奥平委員，高地委員，辻委員，寺井委員，布谷委員，渡部委員
金道オブザーバー，遠藤オブザーバー

■ 欠席委員

酒井委員

■ 傍聴等

北海道新聞社，函館新聞社

■ 議題

- （1）委員長および副委員長の選出について
- （2）観光振興に関する財源確保策の検討について

【会議の概要等】

1 開会	
2 委嘱状交付および 委員紹介	（委嘱状交付後，事務局から出席者・欠席者を紹介）
遠藤オブザーバー	オブザーバーの立ち位置について教えて欲しい。
財務部長	代理出席もできるよう，柔軟性も含めてオブザーバーという形で対応させていただいた。委員と同じようにご意見も伺いたい。

- | | | |
|---|---|---|
| 3 | 副市長挨拶 | (谷口副市長挨拶) |
| 4 | 事務局紹介 | (事務局から事務局職員を紹介) |
| 5 | 委員長および副委員長の選出 | (委員長に奥平委員，副委員長に大橋委員を選出した。) |
| 6 | (資料1) 函館市観光振興財源検討委員会について
(資料2) 今後のスケジュールについて | (配付資料に基づき，事務局から説明) |
| | 奥平委員長 | 本日の議事運営は公開となる。
議事録については，議事要約版を次回開催時に委員に確認し調製する。
スケジュールについては，進行状況等によって変更がありうる。 |
| 7 | (資料3) 函館市の観光振興の現状と今後の施策について | (配付資料に基づき，事務局から説明) |
| 8 | (資料4) 函館市の財政状況について | (配付資料に基づき，事務局から説明) |
| 9 | (資料5) 観光振興財源確保策の検討について | (配付資料に基づき，事務局から説明) |
| | 遠藤オブザーバー | 資料3 2ページの観光入込客数の数字が延べ宿泊者数でなく，実人数になっているが，今回の会議の基礎数値として正しいのか。 |

財務部長	函館市では、過去から実人数で統計をとってきたが、宿泊税となれば、延べ宿泊者数が課税のベースになってくる。
奥平委員長	次回までに延べ宿泊者数を出して欲しい。
観光部次長	次回に出せるようにする。
金道オブザーバー	資料4 3ページは、人口と観光費の関係が出ているが、宿泊人数と観光予算の関係も見てみたい。登別市などは、たくさん観光予算を使っていると思うので、比較できると理解しやすい。
奥平委員長	わかりました。
遠藤オブザーバー	函館市の観光における波及効果と、それに対して観光予算が、どのくらいか、他都市と比べて欲しい。
高地委員	プラスアルファのためなのか、現状の観光予算を維持するためなのか、考え方が決まっているなら、聞かせて欲しい。
財務部長	交流人口を維持拡大していかないと街の衰退につながるため、新しい制度にも充当し、既存の落とせない事業にも安定的に財源を充てて、持続可能な観光施策に取り組んでいきたい。
遠藤オブザーバー	仮に6億円の観光費が人口減で2億円減るとして、その2億円を確保するための宿泊税なのか。
財務部長	法定外目的税なので、全額、観光目的に充てることになり、現在の観光費の維持、拡充のためのものとなる。2億円減ったから2億円確保するということだと、毎年、税率が変わることとなるので、ある程度、安定的な財源を確保しておきたい。

遠藤オブザーバー	<p>昨年の地震では、半分以上がキャンセルになった。ホテルの客数は安定的でないことを理解して欲しい。</p>
財務部長	<p>今後、観光客が半分になった場合、半分の観光施策でいいということには、ならない。一般財源で補填して、安定的に観光施策を展開していきたい。</p>
遠藤オブザーバー	<p>ずっと定率・定額なのか、毎年、変わっていく部分はあるか。</p>
財務部長	<p>他都市も5年ごとに見直すような条例になっていて、そのときに、税率を見直すことは可能かと思う。</p>
高地委員	<p>観光施設に入場料をかけることもできるのでは、何を目的にしていくらかけるとか、ビジョンがあれば教えて欲しい。</p>
財務部長	<p>観光費は、年間6億円かかっており、ほかに西部地区のまちづくり、クルーズ船や航空路線の誘致等にも費用がかかっている。観光施設利用に課税すると考えると、函館山だとロープウェイだけでなく、徒歩も車などもある。宿泊税が、観光客を課税客体として補足しやすく、妥当と考える。</p>
金道オブザーバー	<p>もう少し丁寧に進めて欲しい。 宿泊人数に対する観光予算はどうなっているか。 登別は、もっと予算を使っているのでは。</p>
遠藤オブザーバー	<p>今後、ホテルが増えてくるので、価格競争が激しくなる。そこも、理解して欲しい。</p>
財務部長	<p>オブザーバーや意見交換会でいろんな意見を聞いた中で制度設計が必要と考える。</p>
遠藤オブザーバー	<p>資料5 7ページで対象が観光客となっているが、ビジネス客はどうなるのか。</p>

財務部長	ビジネス目的であっても、観光施設に立ち寄ることもある。そこは、制度設計の部分になる。
遠藤オブザーバー	今後、市内で温泉ホテルが複数オープンするが、宿泊税については、入湯税も考慮に入れて制度設計して欲しい。
金道オブザーバー	宿泊税を徴収する場合、入湯税の減額はできないか。宿泊税の制度設計をするときは、宿泊事業者の意見を充分聞いて欲しい。
財務部長	意見交換会や検討委員会が出た意見を参考に、制度設計していきたい。
奥平委員長	次の会議に向けて資料の整理をお願いしたい。宿泊税を導入している東京について教えて欲しい。
高地委員	宿泊税を導入している自治体の比較資料が欲しい。将来の少子化などがあるので、宿泊税の導入は必要だと思う。 小樽や登別は、狭い地域の観光地で、函館と条件が違うので、比べても議論が進まないのでは。
財務部長	条例等が出ている自治体の事例を一覧表にして示したい。
遠藤オブザーバー	資料5 6ページの協力者とは何か。
財務部長	富士山の入山協力金などがあるが、任意の協力金である。
遠藤オブザーバー	財源確保策の比較検討に宿泊施設以外の観光施設利用は入らないのか。

財務部長

入域や施設利用などに対しての協力金ということであれば補足が難しいということで、宿泊行為への課税が妥当だと判断した。委員の中で意見があると思うので、議論してもらいたい。
施設利用者数の比較ができる資料は用意する。

10 閉会

奥平委員長

いろいろなデータを見たいので、資料をお願いしたい。次回もよろしくお願いしたい。